

＜今日の説教のポイント 出エジプト記6章28節～7章13節＞
祭司資料(6:2-7:13)から知らされる大事なことの3回目。

1 (6:28-7:2) 吃音がモーセに与えた幸いを考える。

出エジプト記前半の中で、モーセが吃音であったことはもう一度押さえておきたい大事なことです。神様はその彼を用いられたのです。私たちは誰しも弱点を持っています。しかし、それは神様が色んな仕方です補って下さるのです。その神様の補いを信じて生きるなら、弱点はむしろ人を謙虚にして幸いをもたらしてくれるものと言えるでしょう。

2 (7:3-7) 神様が「ファラオの心を頑なにする」とはどういう意味？

ファラオが神様の命に背くことを、神様御自身が「**私はファラオの心を頑なにする**」(3)と言われるのは妙な気がします。しかし、5章でも、イスラエルの民が重労働を課されたのでモーセとアロンが「なぜですか」と問うたのに対して、主は「**今や、私がファラオにすることを見るであろう**」と言われ(6:1)、その続きの開始の7章14節でやはり主は「**ファラオの心は頑迷で、民を去らせない**」と言われたとあります。大事なことは、しかし確かにどちらもその後、神様の言われたことがなされて行くのを見るということです。私たちは、「神様がこう言われたから、こうなるのだろう」と思います。しかし「こうなるだろう」と思う内容が私と神様の思っていることとは違う、もしくは、その過程が違う場合があるのではないのでしょうか。神様のなさるプロセス(過程)があり、その最後は必ず恵みに至る、そのように考えて、何が起こってもどっしり構えて生きることができるようになりたいものです。

3 (7:8-13) 信じるに足る、真の神様がここに御自身を示された！

モーセとアロンが主から「ファラオに示せ」と言われて行った奇跡をファラオの呪術師たちもできました。しかしできることの差は歴然としていたのです(12節の意味)。この差が分らずに誤った神の方を信じてしまう場合もありますし、どこまでも頑なに受け入れない場合もあります。聖書に出会い、キリストに出会い、赦しの愛に満ちたこの神様をこそ信じて生きる思いが与えられますように祈っています。